阿波市の板碑

考古班（徳島考古学研究グループ）

岡山真知子[*1]　小林　勝美[*2]　三宅　良明[*3]　福田　宰大[*4]　中川　尚[*5]

要旨：阿波市には，市場町を中心に特徴的な板碑が造立されている。今回の調査で36基の板碑の存在（所在不明を含む）を確認した。その中で，紀年銘板碑22基も確認した。阿波市の板碑の大きな特徴は，標識として阿弥陀画像を使う板碑が多いこと，切幡寺の板碑に正平七年という南朝年号が使われていること，２ｍを越えるような大形の板碑が造立されること，紀伊型板碑との共通性が見られたことである。また，土成・高尾の1125年の弥勒菩薩石仏のような板碑の先行形態が見られたことなどから板碑の起源や流通を考える。

キーワード：阿波型板碑，紀伊型板碑，阿弥陀画像板碑，南朝年号，六地蔵画像板碑

１．はじめに

板碑とは，石製の卒塔婆のことで，中世に造立され，分布の中心地の一つに阿波国があるという独特の考古遺物である。阿波市では，市場町において板碑の調査が阿波学会として実施されているが，他の地域では未実施であるため，今回は阿波市の板碑として調査を実施した。

阿波市の板碑についての研究は，江戸時代の七条文堂に始まる。その後，一時停滞するが，沖野舜二氏や石川重平氏によって紀年銘板碑が集成される際に，記述されている。その後，各市町村史編纂の際に調査され，記述されている。特に，『市場町史』は現地調査に基づき，坂本氏による拓本も掲載されている。大野寺住職により秋山好久氏の「南北朝頃を中心とした山野上付近」の原稿が入手できた。

今回，確認できたのは，阿波地区４基，市場地区24基，土成地区６基の計34基である。ただし，過去には吉野町に応永年号の名号板碑が存在していたことが明らかである（石川ほか1985）。市場町では王子前地蔵堂板碑の管理者の方から出土した墓地にはもう１基存在しているとの教示を得たので，合わせると36基となる。これらを地図上に復原したのが**図１**である。

２．阿波市における板碑の調査

今回の調査は，確認した34基のうち30基の板碑の実測調査・拓本・写真撮影を行った。

阿波市で確認した34基の板碑を分布でみると，前述もしたが，阿波地区４基，市場地区24基，土成地区６基の計34基である。なお，所在地については**図１**，内容については**表１**に示した。**図１**をみてもわかるように，市場地区の吉野川寄りに集中していることがわかる。

また，阿波市の板碑は，阿波地区は１基だけが２箇所，２基が１箇所である。市場地区は１基だけが６箇所（本来は複数出土した可能性のあるのを含む），２基が２箇所，４基が１箇所，７基が１箇所，出土地不明が３基である。土成地区は１基が４箇所，２基が１箇所である。吉野地区では１基存在してい

＊１　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館　＊２　阿波学会会長　＊３　徳島市教育委員会社会教育課
＊４　徳島市立福島小学校教諭　＊５　徳島県立脇町高等学校教諭

地形図は「阿波市全図」（阿波市発行，建設省国土地理院承認番号　平18 四複，第85号）の一部を使用。

図１　阿波市における板碑の所在（図中の番号は表１に同じ）

たはずであるが，今回は確認できなかった。

今回の調査で，紀年銘板碑が22基（確認できなかった吉野地区も含む）あり，板碑の62.8%を占める。

おもな板碑について地区別に述べる。

１）阿波地区の板碑（図２）

阿波西端の真光寺庵に阿弥陀画像板碑が安置されている。この板碑の特徴は，画像の下部に刻まれる銘文が画像の両端部に刻まれていることである。また，阿波東端に春日神社板碑がある。大日種子を標識とするが，自然石に刻んだ変則的な板碑であるが，元応二（1320）年という阿波市最古の紀年銘をもつのが特徴である。

阿波南の，歓喜天祠で２基の板碑を確認した。『久勝町史』に記載されている板碑で，新田氏との関連があるとも言われている。紀年銘はない。

２）大野寺および周辺の板碑（図３・４・７）

大野寺で６基，南にある春日神社，建布都神社，王子神社南の地蔵堂，伊月共同墓地，伊月秋月義雄宅，山野上笠井英男家から各１基が確認された。これらで紀年銘がないのが１基だけである。また，標識が阿弥陀画像５基，阿弥陀三尊種子５基，六地蔵画像１基，大日種子１基と，画像が多いのが特徴である。特に，今回始めて確認した出土地不明の阿弥陀三尊種子板碑は，深い彫りで種子を月輪で囲み，蓮華座をもつ。また，下部には梵字が彫り込まれている。裏を見ると，鑿の痕跡が明瞭に残っている。

後述もするが，春日神社板碑は237cmという大型板碑で，紀伊型と考えられる。建布都神社は，古墳の墳丘上に建てられている板碑で，高さ192cm・幅84cmという大型板碑である。

３）旧虚空蔵堂の板碑（図５）

大野寺周辺と同じグループであるが，まとまりがあるので，別に扱う。７基の板碑が確認された。うち，３基が阿弥陀画像，３基が阿弥陀三尊種子，１基が阿弥陀三尊種子に名号の組み合わせとなっている。紀年銘は２基しかなく，暦応四（1341）年と応永である。虚空蔵堂は板碑以外に五輪塔などの石造文化財も多く残されている場所でもある。

また，阿弥陀三尊種子板碑で蓮華座を持つのが３例，花瓶をもつのが１例という特徴がある。

表１　阿波市板碑一覧

No.	所在地	長さ	幅	厚さ	二線	枠線	標識	銘文	文献
1	阿波町西谷　真光寺庵	146.5	44.5	26.5	有	有	阿弥陀画像	願以此功徳普及於一切　□□比丘尼逆修善根　我等与衆生　皆共成仏道延文五年六月十七日造立敬白	1
2	阿波町下喜来 春日神社	144.0	50.0	25.0	無	無	大日種子　ア	元応二八四	1
3-1	阿波町勝命歓喜天祠	38.0	15.0	3.0	有	有	阿弥陀三尊種子		2
3-2	阿波町勝命歓喜天祠	32.8	23.0	1.8	無	無	不明		2
4-1	市場町犬の墓座主（市場資料館展示）	43.5	17.0	3.0	有	有	阿弥陀三尊種子		3
4-2	市場町犬の墓座主（市場資料館展示）	46.0	16.5	4.0	有	有	阿弥陀三尊種子		3
4-3	出土地不明（市場資料館展示）					有	阿弥陀画像		
5-1	市場町香美　八幡本　古虚空蔵堂	81.0	32.5	4.0	有	有	阿弥陀画像		4･5
5-2	市場町香美　八幡本　古虚空蔵堂	91.0	37.0	4.5	有	有	阿弥陀三尊種子＋６字名号		4･5
5-3	市場町香美　八幡本　古虚空蔵堂	122.6	36.5	4.0	有	有	阿弥陀三尊種子蓮華	応永	4･5
5-4	市場町香美　八幡本　古虚空蔵堂	133.5	35.0	5.0	有	有	阿弥陀三尊種子蓮華、花瓶		4･5
5-5	市場町香美　八幡本　古虚空蔵堂	103.5	33.0	5.0	有	有	阿弥陀画像		4･5
5-6	市場町香美　八幡本　古虚空蔵堂	88.5	31.0	4.0	有	有	阿弥陀三尊種子蓮華		4･5
5-7	市場町香美字八幡本　旧虚空蔵堂墓地（現・市場資料館展示）	126.0	34.0	5.5	有	有	阿弥陀画像	為□□三十五日修之　暦応四年十一月廿一日□白	4･5
6	市場町香美 春日神社境内	237.0	41.0	10.0	有	有	阿弥陀三尊種子	謹鑿刻石塔敬資　成信逆修善根造立之　豈永和二丙辰二月日敬白	6･4･7
7	市場町香美　郷社本　建布都神社	192.0	84.0	24.0	有	無	阿弥陀三尊種子	謹鑿刻石塔敬資　慈父三十三廻之遠忌　時応安第二己酉暦仲春　中幹法眼定金敬白	6･4･7
8-1	市場町大字山野上字白坂大野寺東南墓地	51.0	16.0	3.5	有	有	阿弥陀三尊種子	□□法花妙	8
8-2	市場町大字山野上字白坂大野寺本堂内	94.0	25.7	3.0	有	有	阿弥陀画像	為尼妙性逆修善根也　応安四年二月時正敬白	6･4･8･7
8-3	市場町大字山野上字白坂大野寺墓地	114.5	49.5	5.5	有	有	六地蔵画像	右志者為現当　永和二大　大歳	6･4･8
8-4	市場町大字山野上字白坂大野寺前墓地	138.0	52.5	8.5	無	無	大日種子（バン）	平和□願主利貞　康永三年歳次庚申二月　日敬白	4･8
8-5	出土地不明（大野寺保管）	93.5	21.0	2.5	有	有	阿弥陀三尊種子	梵字，嘉暦（？）二年一月十二日	
8-6	出土地不明（大野寺保管）	57.0	19.0	4.2	有	無	阿弥陀三尊種子	なし	
9	市場町大字山野上字立石墓地（現・王子前地蔵堂北）	158.0	42.2	3.2	有	有	阿弥陀画像	□□□十三廻忌立之　康応元年十一月日敬白	4
10	市場町大字山野上字中山笠井英男家（現・市場資料館展示）	144.0	45.6	4.5	有	有	阿弥陀画像	□□□霊三ヶ年之間　奉燃四十八燈結願　応安七甲寅季十一月日茲企願主敬白	4
11	市場町伊月御幸の北共同墓地	98.0	49.0	4.0	有	有	阿弥陀画像	右志者為西阿二親□□□□暦応二八月時正願主敬白	4
12	市場町伊月大桑北 秋月義雄宅	165.0	60.0	10.0	有	有	阿弥陀画像	右為□□逆修七分全得□□　応永□□年八月十八日	6･4
13-1	市場町切幡　切幡寺墓地	68.0	20.5	3.0	有	有	阿弥陀三尊種子	為□□逆修也　正平七年二月□日	6･4･7･8
13-2	市場町切幡　切幡寺	64.0	21.8	3.0	有	有	阿弥陀三尊種子	貞治五年八月日孝子敬白	6･4･8
14	土成町秋月城址	40.0	21.0	10.0	有	有	阿弥陀三尊種子		
15	土成町水田 寺井宅裏	118.0	47.0	6.0	有	有	阿弥陀画像	為逆修三十三年　康暦元年十月二十三日	7
16-1	土成町西原熊谷寺参道	193.9	20.5	12.5	有	無	阿弥陀三尊種子	右志者為慈父母成等正覚乃至法界平等利益逆修□□□□□暦応二八月時正日敬白	7
16-2	土成町西原熊谷寺参道	80.0	31.0	5.8	有	有	阿弥陀三尊種子		
17	土成町吉田　釈迦堂	45.0	24.0	4.0	有	有	阿弥陀三尊種子	応永八年八月	7
18	土成町高尾　安楽寺谷畑中	112.0	40.0	12.0	無	無	大日種子	応永七年七月　日建立	7
19	吉野町一条　夏目庵	45.0	21.0	3.0	有	有	名号	為比丘尼本日第三廻忌也　応永十二年十二月廿一日敬白	9

（長さ・幅・厚さの単位はcm）

4）切幡寺の板碑（図７）

四国霊場十番札所切幡寺に２基の板碑がある。墓地から出土したとのことである。いずれも阿弥陀三尊種子板碑で紀年銘をもつ。正平七（1352）年と貞治五（1366）年である。

この正平七（1352）年というのは，南朝年号である。阿波型板碑において，南朝年号の板碑は，正平五年と七年のわずか５例しかない。正平五年は，国府町西矢野の五輪塔線刻板碑，正平七年は徳島市入田町海見の阿弥陀一尊種子板碑，石井町石井徳蔵寺の阿弥陀一尊種子板碑，神山町鬼籠野中分の阿弥陀三尊種子板碑と市場町切幡切幡寺の阿弥陀三尊種子板碑の計５基である。

5）市場資料館の板碑（図６）

市場資料館には５基の板碑がある。うち２基は大野寺周辺の笠井英男家と旧虚空蔵堂である。２基は犬の墓座主出土と記されていた。これは『大俣村誌』に記載されている中の一つである。同書には犬の墓以外にも記述があり，確認調査を行ったが，確認できなかった。また，１基は出土地の記載がないが，阿弥陀画像の中央部分である。

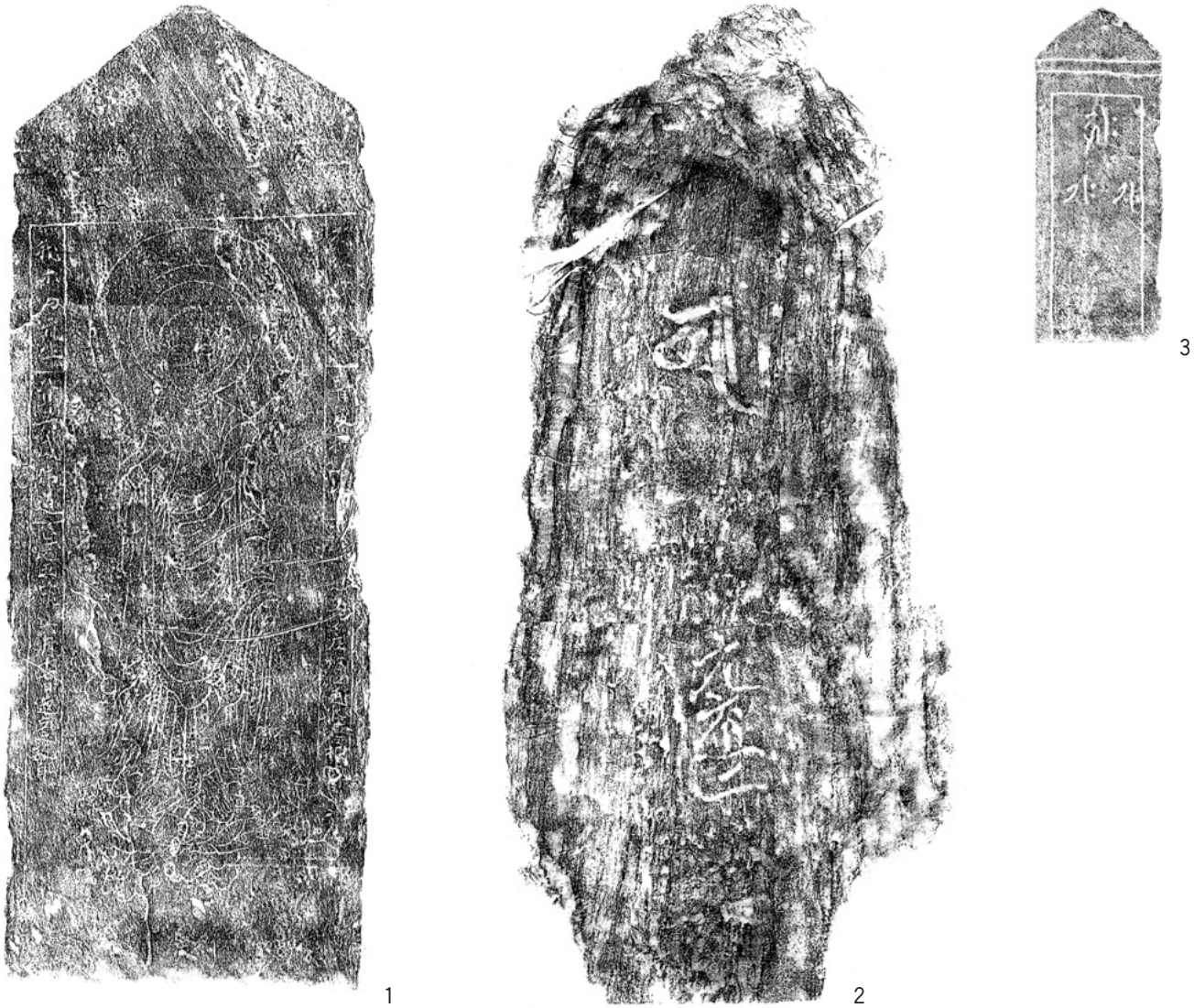


図２　阿波市板碑実測図　No.１（阿波地区）（番号は表１に同じ，１・２は１：10，３は１：８）

7

6

図３　阿波市板碑実測図　No.２（市場地区）（番号は表１に同じ，１：10）

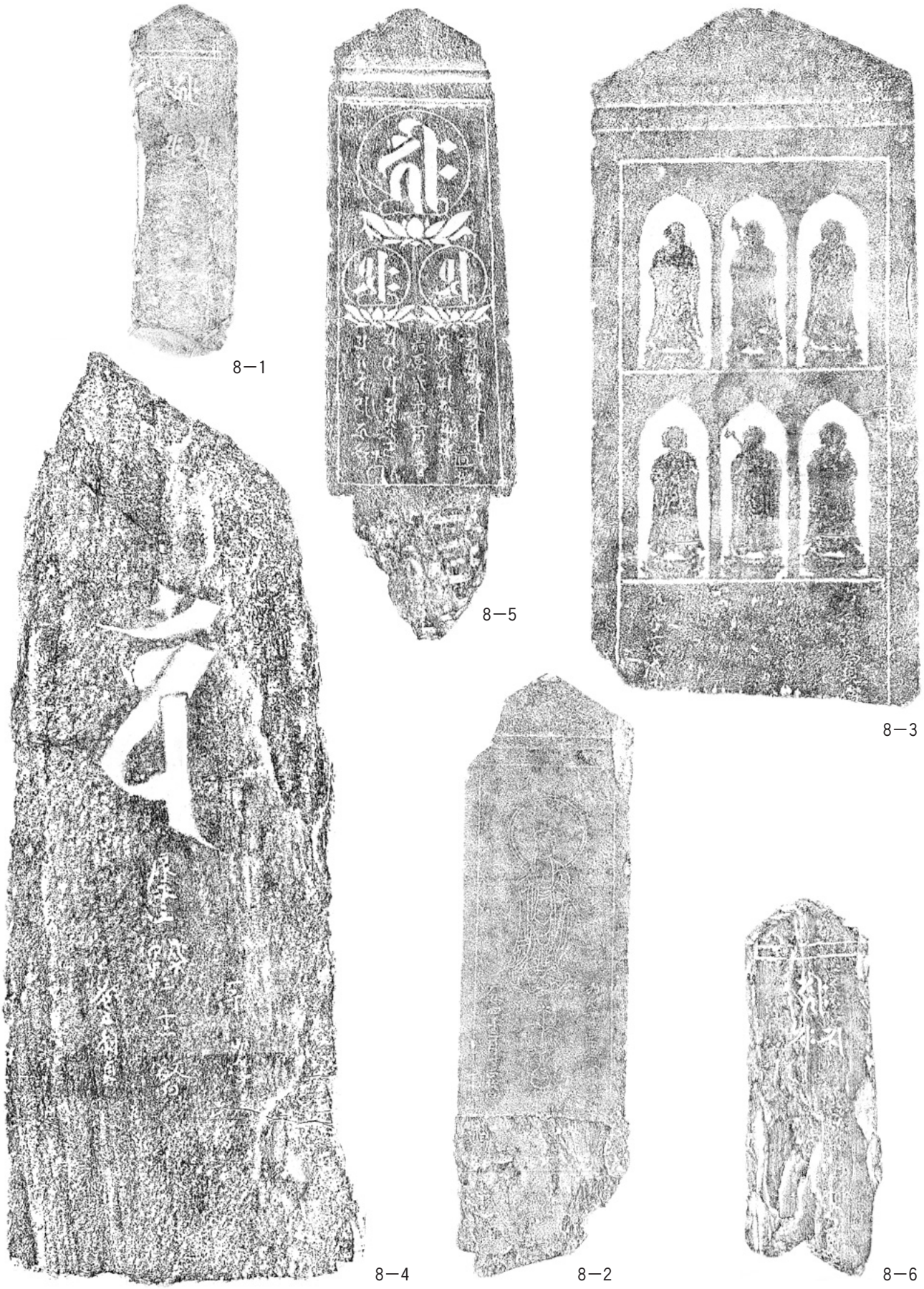


図４　阿波市板碑実測図　No.３（大野寺）（番号は表１に同じ，１：８）

図５　阿波市板碑実測図　No.４（旧虚空蔵堂）（番号は表１に同じ，１：10）

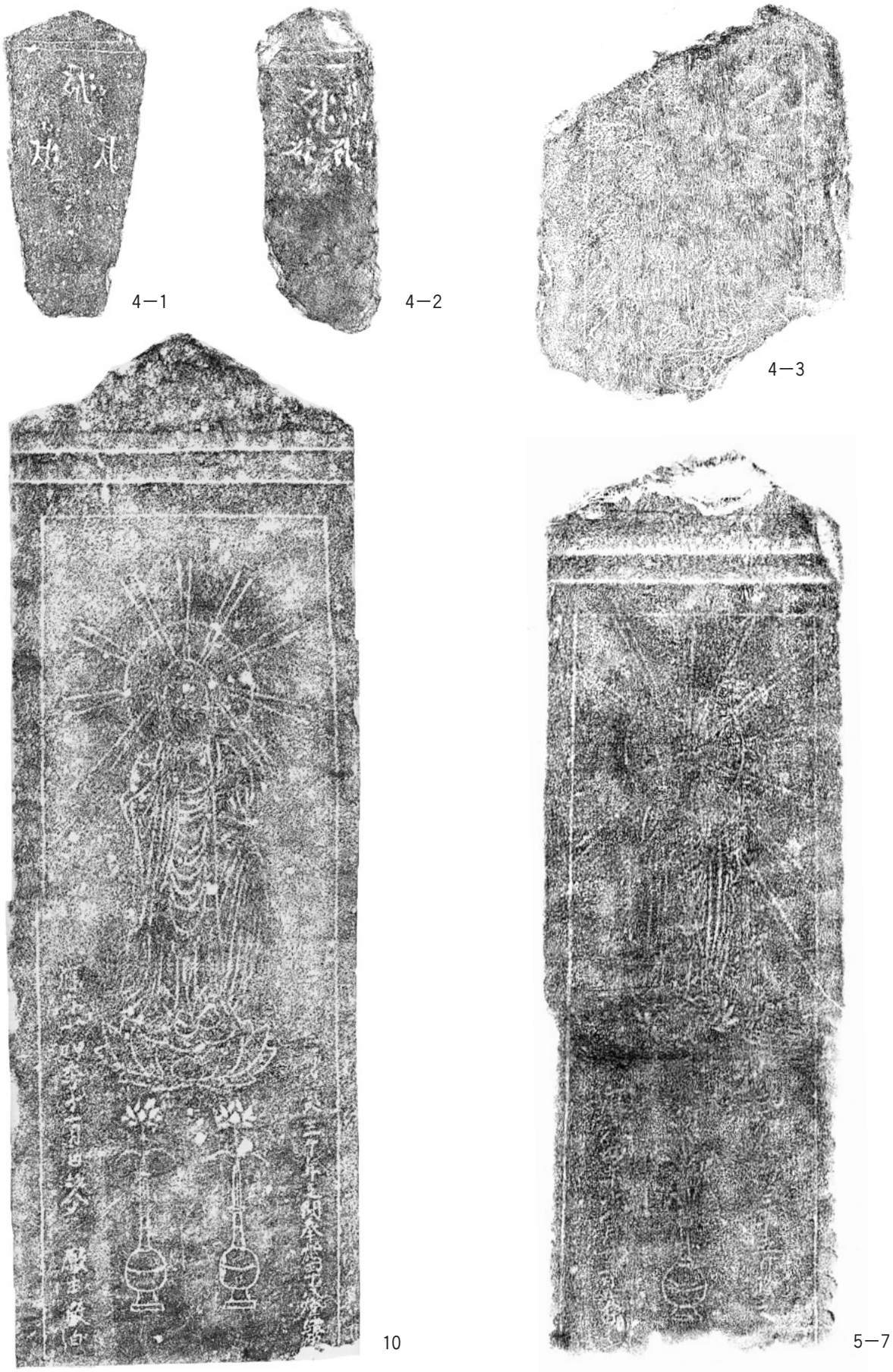
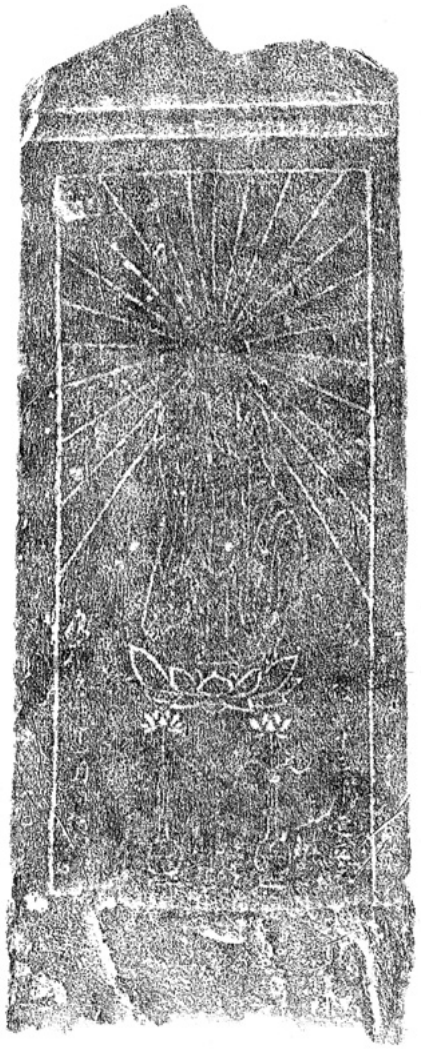


図６　阿波市板碑実測図　No.５（市場資料館展示）（番号は表１に同じ，１：８）

13－1

13－2

11



9

16－2

16－1

図７　阿波市板碑実測図　No.６（市場・土成地区）（番号は表１に同じ，１：８）

6）熊谷寺の板碑（図７）

四国霊場九番札所熊谷寺参道に２基の板碑がある。いずれも阿弥陀三尊種子板碑である。１基は，高さ193.9cm，幅20.5cmという大型板碑で紀伊型と考えられ，1339年という古い紀年銘をもつ。もう１基は今回発見した阿弥陀三尊種子板碑である。

３．まとめ

１）板碑の標識

阿波市の板碑を標識別にグラフにしたのが**図８**である。これをみると，一般的に阿波型板碑では阿弥陀三尊種子板碑が2/3くらいを占めるのに対して，阿波市では48％とかなり少ない。それに対して，阿弥陀画像板碑が31％と高率を占める。また，大日種子も12％と多い割合を示している。名号は１基だけと少ない状況であるが，阿弥陀三尊種子と名号を複合して刻まれている例が１例確認できた。

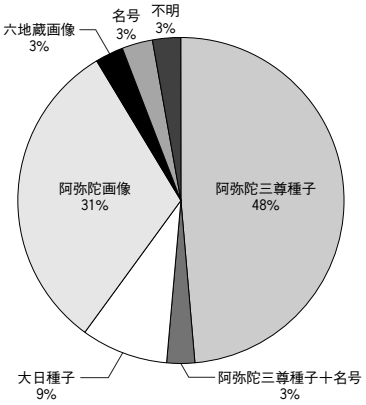


図８　阿波市板碑の標識割合

阿波市板碑の特徴はなんといっても阿弥陀画像板碑が多いことである。阿波型板碑で現認できた阿弥陀画像板碑は60基である。神山町でも20基で３％しかない。うち10基が紀年銘板碑で，1339年から1400年までである。特に，1371年～1400年の間には７基が造立され，４年に１基の割合で造立されている。なかでも，大野寺の阿弥陀画像板碑は保存状況もよく，美しく描かれている。また，花瓶を伴う例も多い。阿弥陀三尊種子板碑も三尊種子を月輪で囲んだり，蓮華座といって梵字の下に蓮の花を描いているのも多く見られ，そうした板碑は花瓶を伴っている例が多い。また，阿弥陀三尊種子の下に名号を描いてある例が虚空蔵堂で１例認められる。類例として，吉野川市（旧麻植郡美郷村）栩谷の地蔵堂内六角形地神碑前の板碑がある。これは，名号に阿弥陀三尊種子を組み合わせた例である。明応五（1496）年閏二月四日の紀年銘をもち，長さ134.9cm・幅46.7cmの大形板碑である。ただし，この板碑は名号が中心にあり，その上に月輪の中に阿弥陀三尊種子と蓮華座を描いている。これは，虚空蔵堂例も共通している。

阿波型板碑では３例しかみられない六地蔵画像板碑が大野寺に１例ある。しかも，大形で美しい板碑である。ただ，銘文の下半分が破損しており，残念な状況となっている。

名号板碑は今回確認できなかった吉野地区の１例だけである。これも特徴であろう。

２）板碑の造立年代

紀年銘板碑で，造立年代をまとめると，**図９**のようになる。最も古いのが阿波地区の下喜来春日神社の大日種子板碑の1320年で，鎌倉時代である。次いで，市場伊月共同墓地と土成熊谷寺の暦応二（1339）年である。最も多く造立されたのが，南北朝期の1366年から1379年の間と南北朝合一後の1394年～1405年の間である。これは阿波型板碑と共通する特徴である。最も新しいのが1405年であり，15世紀以降，室町時代の後半期の板碑が見られない。阿波型板碑が数は少ないが造立され続けるが，ここでは見られない。ただし，紀年銘を持たない小型板碑にはその可能性もある。

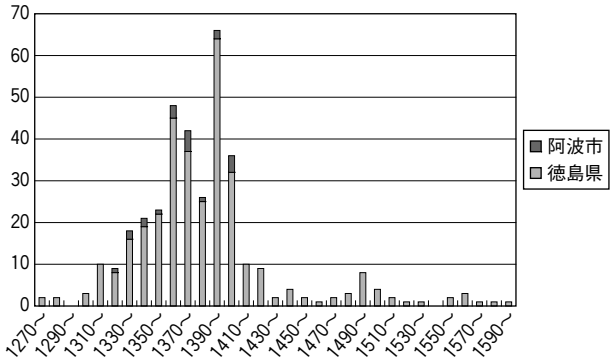


図９　阿波型板碑と阿波市板碑の造立年代

前述もしたが，紀年銘板碑の中で最も注意を要するのが，切幡寺の正平七（1352）年という南朝年号が見られることである。南朝年号の板碑は，正平五年と七年のわずか５例しかない。この地域に南朝の

影響があったと考えてよいのだろうか。

また，大野寺周辺（旧虚空蔵堂を含む）では，大きく３つの造立時期がある。１つは，1339年～1344年に３基，1369年～1377年に５基，1389年～1400年に４基と短い時期に集中的に造立されたことがわかる。これも大きな特徴である。

重要な指摘として，土成町高尾に存在する弥勒菩薩石仏の存在がある。石川他（1985）によれば，天治二（1125）年と鎌倉時代の紀年銘をもつ石仏で，高さ274cm・幅121cm・厚さ15cmを測る大型品である。これを石川は先行板碑と位置づけており，この考え方にたつと，最も古い板碑と考えられる。

３）板碑の大きさ

阿波市板碑の特徴に，大形板碑が多いことが挙げられる。200cm前後から越える板碑が３基もある。また，長さと幅の比が阿波型板碑の場合は１：２が標準的だが，阿波市板碑は１：３のラインに多くなる傾向があり，やや細長い形と言える。

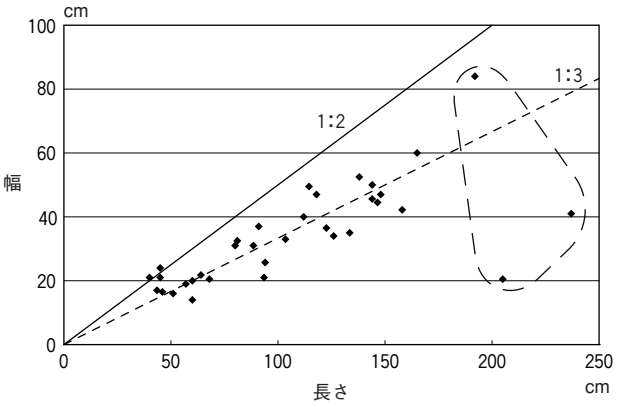


図10　阿波市板碑大きさ

４．考察

１）徳島県内の六地蔵画像板碑（図11）

徳島県内で，六地蔵画像板碑と確認できるのは，この板碑を加えて４例である。

徳島市国府町日開高屋敷　法光寺（1375年）例（全長125cm・幅55cm・厚6.5cm），名西郡石井町白鳥（建武？）例（全長170cm・幅56cm・厚5.5cm），徳島市国府町西矢野　興禅寺前（1584年）例（全長136cm・幅56cm・厚18cm）である。大野寺例は1377年の紀年銘をもち，六地蔵を陽刻している。法光寺例も同様で，この二者は意匠がよく似ている。石井町白鳥例や国府町興禅寺前例は線画で六地蔵を描いており，大きく異なる。

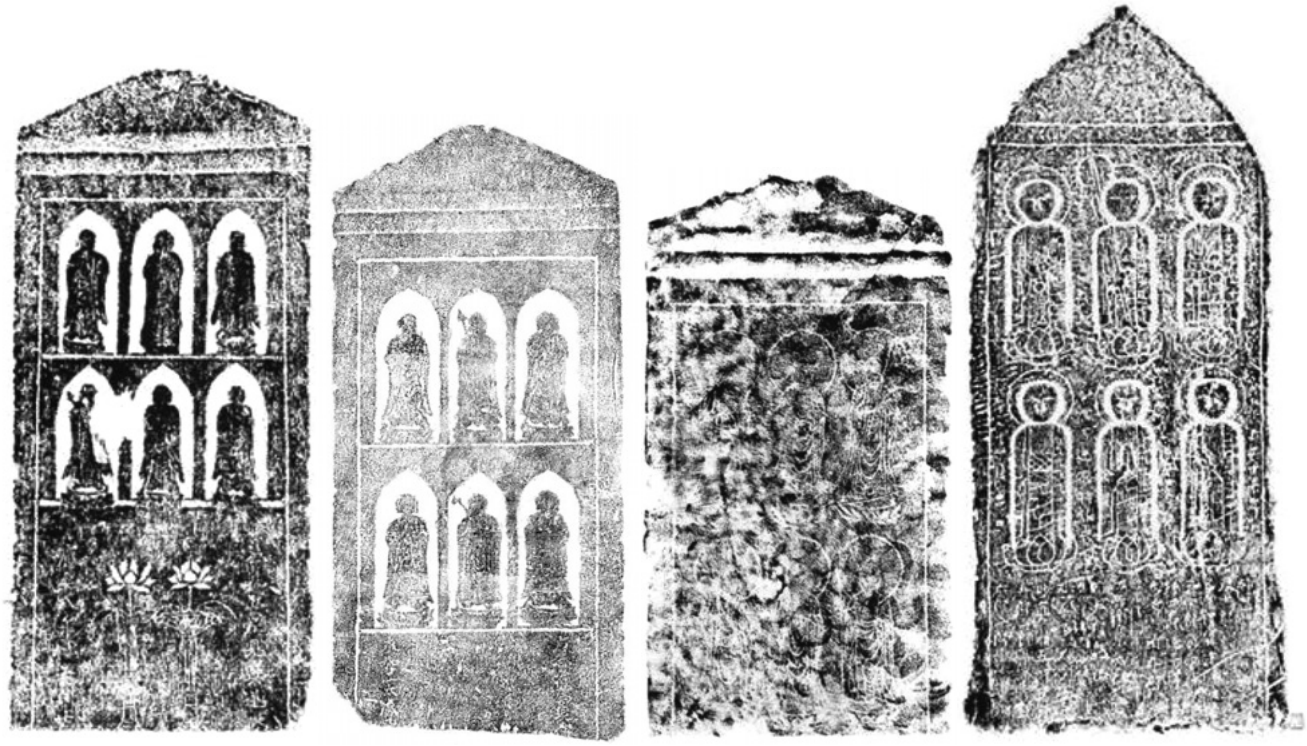
２）紀伊型板碑との関連（図12）

阿波市の板碑には，市場町の春日神社板碑や成町熊谷寺参道阿弥陀三尊種子板碑のように細長くて分厚い板碑が見られる。調査中に土成町の秋月城址でも小さいが分厚い阿弥陀三尊種子板碑が確認できた。これは，紀伊型板碑と共通するものと考えられる。紀伊型板碑は普通は幅15～20cm，高さ60～90cmとされている。ここでは，上富田町の普大寺墓地板碑を紹介（谷本1978）し，共通点を考える。普大寺墓地板碑は，硬砂岩製の大形板碑である。総高243.5cm（地上の高さ約186cm），幅32cm，厚さ上部約15cm，下部約13cm，身部は板状であるが根元はかまぼこ型の断面となっている。頂部は三角形で鋭く舟形光背型で，身部上部に二条線を巡らし，幅広い額部をつくり出している。**図12**に並べて掲載したが，細長く，厚みを持共通性がよく分かる。このように，紀伊型板碑との共通する板碑は，阿波型板碑では少ないが，阿波市板碑の大きな特徴と言える。南北朝期に紀伊との関連が強かったことを窺わせる資料である。

謝辞　阿波市教育委員会,阿波市文化財保護委員会,市場歴史民俗資料館，大野寺，笠井家より多大なご援助をいただいた。記して感謝したい。

参考文献（番号は表１の文献欄の文献）

1　阿波町史編纂委員会（1979）:『阿波町史』，阿波町
2　久勝町史編纂委員会（1952）:『久勝町史』
3　大俣村誌編纂委員会（1956）:『大俣村誌』
4　市場町史編纂委員会編（1996）:『市場町史』
5　市場町教育委員会（1994）:市場町の文化財めぐり
6　石川重平ほか（1979）:「市場町の石造文化財について」『阿波学会紀要市場町』
7　板野郡土成町史編纂委員会（1975）:『土成町史上巻』
8　八幡町史編纂委員会（1955）:『八幡町史』
9　石川重平・河野幸夫（1985）:「阿波の板碑」『阿波学会三十年史・紀年論文集』
徳島県板野郡教育會編（1926）:『板野郡誌』
七条文堂（出版年不明）:「板野郡安楽寺谷の板碑」『百世草』
秋山好久（出版年不明）:「南北朝頃を中心とした山野上付近」
上坂　悟（1983）:「板碑にみられる仏具」『板碑の総合的研究Ⅰ総論編』柏書房
小沢国平（1967）:『板碑入門』隣人社
沖野舜二（1957）:『阿波板碑の研究―序説―』小宮山書店
服部清道（1972）:『板碑概説』角川書店



国府町法光寺　　市場・大野寺　　石井町白鳥　　国府町興禅寺前

図11　徳島県内の六地蔵板碑

普大寺墓地板碑

市場・春日神社

土成・熊谷寺

土成・秋月城址

図12　紀伊型板碑